

第29回 北九州市地域公共交通会議資料

令和2年2月13日
北九州市建築都市局
都市交通政策課

北九州市営バスの課題と今後の取組みについて

1 市営バスの現状及び課題

全国的に年々、乗合バス利用者が減少する中、市営バスでは「第2次北九州市営バス事業経営計画」(平成28年度～令和2年度)に基づき、経営改善に取り組んでいますが、下記の課題等により、平成28年度から3年連続で赤字決算となっています。

(収益的収支 H28年度:▲32百万円、H29年度:▲95百万円、H30年度:▲71百万円)

【課題1】バス利用者の減少

人口の減少やマイカーの普及、高齢化の進展等により、全国的に乗合バスの利用者が減少する中、北九州市営バスの利用者也減少しており、乗合バス収入も減収の一途を辿っています。

(税込、千人、千円)

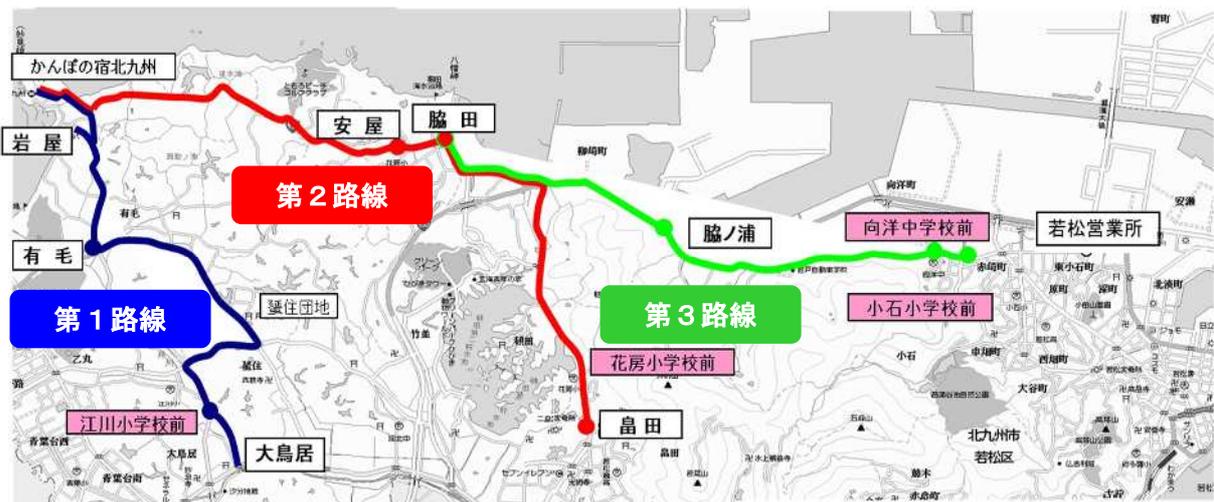
	H27年度 決算	対前年度 増減率	H28年度 決算	対前年度 増減率	H29年度 決算	対前年度 増減率	H30年度 決算	対前年度 増減率	対H27年度 増減率
輸送人員	6,083	▲1.3%	5,925	▲2.6%	5,844	▲1.4%	5,704	▲2.4%	▲6.2%
乗合収入	1,087,144	▲0.2%	1,060,460	▲2.5%	1,045,776	▲1.4%	1,019,078	▲2.6%	▲6.3%

【課題2】不採算路線の維持

若松北西部地域は、広大な地域に集落が点在している上、バス利用者が少なく輸送効率が悪いため、平成25年度時点で約75百万円の赤字が発生していました。

平成26年度～平成28年度にかけて便数の削減や運賃の引上げ等の見直しを実施したものの、平成30年度で約46百万円の赤字となっています。

(若松北西部地域の3路線)



【課題3】軽油価格の高騰による燃料費の増加

軽油単価の上昇により燃料費が増加しています。

	H27年度	H28年度	(税込)					
			対前年度 増減率	H29年度	対前年度 増減率	H30年度	対前年度 増減率	対H27年度 増減率
軽油単価 (円)	82.6	76.3	▲ 7.6%	90.2	+18.2%	104.7	+16.1%	+26.8%
払出数量 (Kℓ)	1,535	1,589	+3.5%	1,572	▲ 1.1%	1,595	+1.5%	+3.9%
燃料費 (百万円)	125	119	▲ 4.8%	139	+16.8%	163	+17.3%	+30.4%

【課題4】バス運転者の不足

全国的に大型二種免許保有者が減少し、バス運転者が不足する中、北九州市営バスでもバス運転者の確保が困難となり、運転者が不足しています。

■北九州市営バスの運転者数の推移 [各年度末時点]

	必要人数 (A)	在籍人数 (B)	不足数(B-A)
H27年度	181人	164人	△ 17人
H28年度	183人	166人	△ 17人
H29年度	192人	161人	△ 31人
H30年度	184人	164人	△ 20人

2 経営改善に向けた今後の北九州市営バスの取組み

上記の課題等を踏まえ、令和2年3月28日のダイヤ改正に合わせて、以下の経営改善に向けた取組みを実施する予定です。

(1)バス路線の見直し

1日1～2便しか運行していない赤字路線で代替路線がある8路線について廃止する。

(2)休日便の減便

乗合バスの平日便、土曜日便及び休日便のうち、特に経済性の低い休日便について、利用実態に即した減便を行う。併せて、特に乗車率が低い早朝・夜間時間帯について運行時間の繰り下げ等を行う。

(3)乗合バスの小型化 (10人乗りバスの導入)

乗客が少ない路線や時間帯に小型車両 (10人乗りバス) を導入する。

(4)ICバスカード回数乗車券のプレミア率 (割増率) の見直し (令和2年4月1日実施)

ICバスカード回数乗車券について、現行、最大15%のプレミア率 (割増率) を10%に見直し、収入の確保を図る。

(5)貸切事業・受託事業の営業強化

企業の従業員送迎等の新規貸切・受託の受注を進め、増収に努める。

乗合バスの小型化（10人乗りバスの導入）について

1 乗合バスの小型化について

乗客が少ない路線や時間帯への小型車両（10人乗り）導入により、燃料費や車両修繕費等の経費削減を図ります。

さらに、普通二種免許で運転可能なため、新たに大型免許が不要な採用区分を設けて、運転者の確保を図ります。

- (1) 導入台数：10台（別途、車イス対応車両1台[4人乗り]を導入します）
- (2) 導入対象路線数：10路線
- (3) 小型バスの運行本数

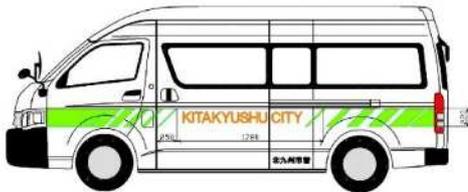
区 分	総本数	うち10人乗りバス	比率
平日	892 便	96 便	10.8%
土曜	723 便	70 便	9.7%
休日	373 便	48 便	12.9%

※路線ごとの運行本数は別紙のとおり

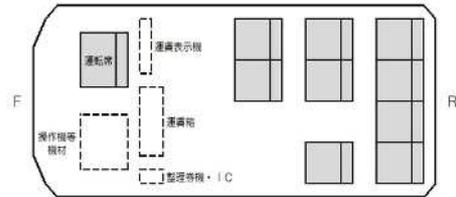
- (4) 導入時期：令和2年3月28日（予定）

【運行車両イメージ】

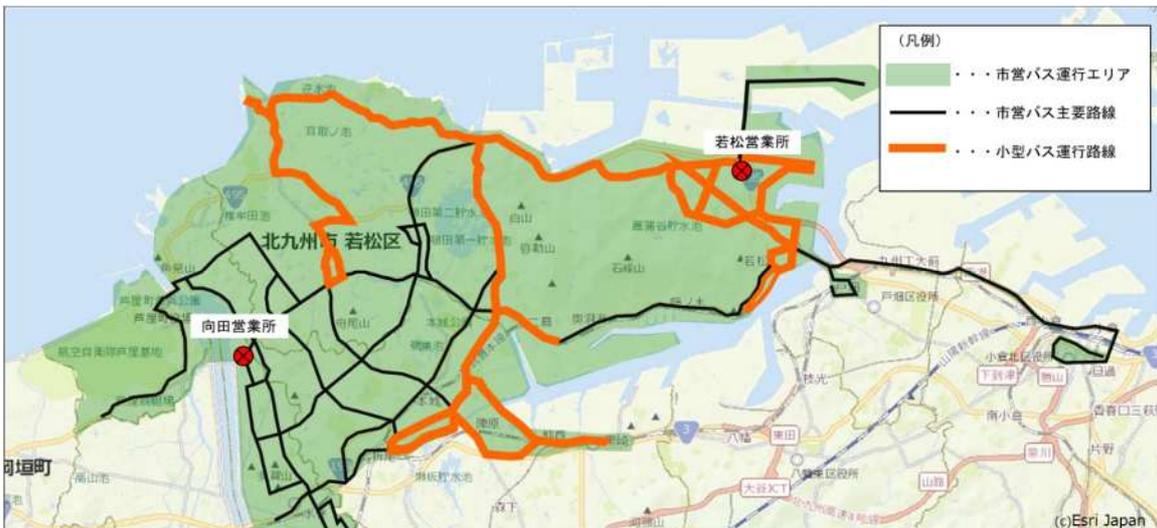
(外観)



(車内レイアウト)



【小型車両を導入する路線図】



10人乗りバスを運行する路線及び本数

		10人乗り	大型バス	計
平日	久岐の浜団地	5便	—	5便
	小石方面⇔産医大若松病院・若松渡場	21便	37便	58便
	小石方面⇔二島方面	1便	2便	3便
	若松渡場⇔安瀬	10便	2便	12便
	折尾駅⇔折尾東団地	5便	36便	41便
	若松方面⇔黒崎	4便	34便	38便
	かんぽの宿北九州⇔大鳥居	17便	3便	20便
	二島⇔かんぽの宿北九州	15便	1便	16便
	脇田⇔若松渡場	18便	2便	20便
	合 計	96便	117便	213便
土曜	小石方面⇔産医大若松病院・若松渡場	14便	41便	55便
	若松渡場⇔安瀬	12便	—	12便
	折尾駅⇔折尾東団地	4便	33便	37便
	若松方面⇔黒崎	6便	28便	34便
	かんぽの宿北九州⇔大鳥居	12便	—	12便
	二島⇔かんぽの宿北九州	10便	—	10便
	脇田⇔若松渡場	12便	—	12便
	合 計	70便	102便	172便
休日	小石方面⇔産医大若松病院・若松渡場	6便	6便	12便
	若松渡場⇔安瀬	5便	—	5便
	折尾駅⇔折尾東団地	3便	12便	15便
	若松方面⇔黒崎	—	11便	11便
	かんぽの宿北九州⇔大鳥居	12便	—	12便
	二島⇔かんぽの宿北九州	10便	—	10便
	脇田⇔若松渡場	12便	—	12便
	合 計	48便	29便	77便

○ 10人乗りバスの便の選定基準（例示）

二島駅 → 畠田・脇田 → かんぽ									かんぽ → 脇田・畠田 → 二島駅								
便数	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
発時間	8:30	9:30	11:07	12:12	13:36	14:37	15:07	19:19	6:42	7:54	11:06	13:06	15:35	17:15	18:00	19:20	
4月15日 月	4	1	8	7	7	4	1	5	5	13	4	5	3	2	1	3	
4月16日 火	1	1	5	7	6	4	6	4	5	11	4	5	2	4	1	1	
4月17日 水	6	2	8	5	8	4	6	4	5	10	7	6	2	5	2	0	
4月18日 木	3	1	5	4	2	1	2	4	6	8	5	4	5	4	0	1	
4月19日 金	4	3	1	2	4	4	3	5	3	11	4	3	3	3	3	0	
平均人数	3.6	1.6	5.4	5	5.4	3.4	3.6	4.4	4.8	10.6	4.8	4.6	3	3.6	1.4	1	
始発～終点までの最大人数									始発～終点までの最大人数								

※ 全路線の便ごとの最大乗車人数を調査

※ 乗車定員9人に対して最大乗車人数が原則7人以下の便を10人乗りバス便と選定

運賃を変更する協議路線の系統一覧

路 線 名	区 間 (始発地・主な経由地・終着地)
小石～二島線	若松営業所～脇の浦～二島駅
渡場～脇ノ浦循環線	若松渡場～区役所・二島・脇ノ浦・上原・区役所～若松渡場
折尾～グリーンパーク線	折尾駅西口～浅川中・ひびき南1・新弘川～汐入の里
かんぼの宿～大鳥居線	かんぼの宿北九州～蛭住団地～大鳥居
	大鳥居～脇田・かんぼの宿北九州～二島駅
	向田営業所～（大鳥居・蛭住・岩屋）～かんぼの宿北九州
	向田営業所～蛭住・大鳥居～かんぼの宿北九州
二島～かんぼ線	二島駅～脇田～かんぼの宿北九州
脇田・小石～渡場線	産業医科大学若松病院～本町・上原～脇田
	脇田～中畑・本町～産業医科大学若松病院
	若松渡場～本町・上原・脇の浦～脇田
芦屋～若松高校線	鶴丸団地～（青葉台・島郷・脇ノ浦・上原・本町）～若松渡場
竹並～花房小学校～岩屋線	竹並～第二二島～花房小学校前
	花房小学校前～（循環）第二二島・竹並・第二二島・花房小学校～脇田
	脇田～花房小学校・第二二島・竹並～洞北中学校入口
	脇田～竹並～脇田
	弘川～第二二島・花房小学校～脇田